

令和3年度

学校評価
(自己評価)
(学校関係者評価)



山梨市立加納岩小学校

《 学校評価について 》

【 学校教育法 】

- ・学校は、学校評価を行うと共に、その結果に基づいて学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めること（第42条）
- ・保護者・地域住民等の関係者による理解の深化と連携・協力の推進に資するよう、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する（第43条）

【 学校教育法施行規則 】

- ・自己評価を行い、その結果を公表すること（第66条）
- ・保護者その他の関係者による評価を行い、結果を公表するように努めること
(第67条)
- ・評価結果を設置者（市教育委員会）に報告すること（第68条）

【 学校評価ガイドライン（文部科学省） 】 学校評価の目的

- ・学校運営の組織的・継続的な改善
- ・説明責任の履行と学校・家庭・地域の連携，協力
- ・教育委員会による支援，条件整備等の改善

《 本校における学校評価の実施手順 》

① 自己評価

- ・評価項目 → 校長を中心に職員会議で確認 → 策定
- ・教職員による評価項目への取組と振り返り（1月まで）
- ・自己評価書を作成（1月～）

②学校関係者評価

- ・保護者，地域住民が，自己評価の結果を踏まえて評価
- ・本年度の実施→学校運営協議会委員7名による評価
- ・実施期間 令和4年2月24日（木）

③評価結果の設置者への報告 山梨市教育委員会へ（2月下旬）

1. 自己評価

令和3年度 学校評価PDCAシート

【確かな学力】部会

<p>P 評価項目</p>	<p>○確かな学力の育成を図る。</p>	
<p>D 具体的な対応</p>	<p>○日常的に授業改善を行う。 ○ICTを活用した授業実践を行う。 ○英語教育の充実を図る。</p>	
<p>C 評価の方法と結果</p>	<p>方 法</p>	<p>○算数科を中心に、児童の思考の過程を予測した授業展開を練り、ノートや板書を記録として残し、日常的に授業改善を行う。 ○一人一実践では、多くの参観者の意見から授業改善を行う。 ○ICTとして導入される機器を計画的に活用して、授業実践を積む。 ○英語教育においては、学年での打ち合わせをおこない、単元計画や教材研究、発問など具体的な授業展開を考え、アンケート等で児童の実態を把握して充実した実践を行う。</p>
	<p>結 果</p>	<p>○算数科を中心に取組が進められた。学力・学習状況調査結果からはその成果も見られ、山梨市の平均正答率をやや上回った。 ○一人一実践が進められ、低学年、中学年、高学年の各ブロックで授業を参観し合い、ねらいに対する成果と課題を練ることができた。 ○ICTについての学習会を早期に2回、講師を招いて開催した。学習会で学んだことを授業に取り入れ、実践することができた。情報主任を中心に、ICT端末を操作しての研修の機会も数回もてた。 ○英語教育の実践が積み重ねられている。学年での打ち合わせにより、具体的な授業展開を練ることができた。本校では2名の職員が指導案を作成し、指導の在り方や評価の在り方について、県下で検討した。</p>
<p>A 次年度への課題</p>	<p>○英語教育の指定校として、英語教育の充実のために、さらに全職員で理論と実践を積み重ね確かな学力の育成を図る。 ○ICT端末の活用では、実践を積み模索している段階であるが、全職員が同じ指導を行い児童が正しい機器の取り扱いが身に付くように研修を積み、学力の向上に有効なICT端末の活用を図る。 ○算数科においては、成果が見られたので、さらなる学力の向上を目指して実践を積む。また、他教科での活用も図り、確かな学力の育成を図る。</p>	

令和3年度 学校評価PDCAシート

【豊かな心】部会

<p>P 評価項目</p>	<p>○人権教育・道徳教育の推進といじめ・不登校への対応。</p>	
<p>D具体的な 対応</p>	<p>○教育相談体制を整備し周知する。また、道徳科の授業を要として、差別やいじめのない学級づくりを行う。</p>	
<p>C 評価の 方法と 結果</p>	<p>方 法</p>	<p>○学校生活アンケートやQU, 学級力向上プロジェクトなどを活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応をする。 ○道徳科の授業を要として、差別やいじめのない学級作りを行う。 ○SCや家庭との連携を密にして、教育相談体制の整備や個に応じた指導を行う。</p>
	<p>結 果</p>	<p>○学級力向上プロジェクトなどの活用により、目指すクラス像を共有することで一貫した指導ができた。また、自分のクラスの現状を5つの視点に沿って振り返ることで課題と成果を確認し、よりよいクラス作りのための話し合い活動を行うことができた。 ○道徳科の授業をはじめ、学校生活アンケートやQUなどの活用により、学校生活全体を通して差別やいじめのない取り組みを全学級が行い、差別やいじめの未然防止や早期発見・早期対応につなげることができた。 ○SCの相談を利用する児童が増え、活用する機会が増えた。また、6年生及び4年生全員の個人面談や保護者面談などを行うことにより、個別に応じた決め細かな対応につなげることができた。</p>
<p>A 次年度 への 課題</p>	<p>○学級力プロジェクトでは、児童も教師もクラスの学級力を把握し、目指すクラス像を意識して取り組めるよう、全学級で学級力レーダーチャートの掲示を行う。また、アンケートやスマイルタイムの実施時期については、キャリアパスポートも活用しながら教育課程の行事に合わせて行い、子どもたちの協働意識を高めていく。 ○昨年度に比べ、児童や保護者の相談利用が進んだが、今後も児童が悩みを抱えた時に相談に行きやすい環境づくりや方法を工夫していく。</p>	

令和3年度 学校評価PDCAシート

【健やかな体】部会

P 評価項目	○健やかな体の育成を図る。	
D具体的な 対応	○体力の向上を図る。 ○感染症予防への対応を行う。	
C 評価の 方法と 結果	方 法	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を考えて作成した「かのいわ体操」を業間体育で取り組み、基礎的体力やバランス感覚を養う。 ○保健委員会や給食委員会とも連携しながら、日常の健康観察や検温・手洗い等の感染症対策を徹底指導する。 ○感染症対策を講じた上で、持久走大会を実施し、業間体育で持久走の練習を行い体力の向上を促す。 ○冬季になわとび検定を実施することにより、外遊びの頻度が減少する時期に外でなわとびの練習をする機会を設けるようにする。
	結 果	<ul style="list-style-type: none"> ○「かのいわ体操」を取り組むことで、普段外遊びをしない児童も基礎的体力やバランス感覚を養うことができた。 ○保健委員会は、朝学習の時間を使って感染症対策の意義について伝えることができた。給食委員会は、残食調べなどを通してバランス良い食生活の大切さを伝えることができた。 ○持久走大会も感染症対策を講じた上で実施することができた。児童は、業間体育の成果を出し、達成感を味わうことができた。また、体力向上にも直結した行事にすることができた。 ○休み時間にもジャンプ台を設置することで、多くの児童がなわとびに触れる機会が増えた。また、なわとび検定を行うことで、なわとびが苦手の児童も体育のじかんを通して十分になわとびに親しむことができた。
A 次年度 への 課題	○児童が中心となって、感染症対策について伝えていく場面を今年度同様に続けていく。	

令和3年度 学校評価PDCAシート

【安全安心】部会

P 評価項目	○安全安心な学校環境をつくる。	
D 具体的な 対応	○安全指導と訓練を実施する。 ○マニュアルの周知と不断の改善を行う。	
C 評価の 方法と 結果	方 法	<p>○毎月第2木曜の朝学習の時間を「安全指導の日」とし、全校一斉にその時期に必要な安全指導を行う。</p> <p>○一分間一コマ訓練を行い、日頃から非常変災時の自主的な避難行動を児童の身に着けさせる。</p> <p>○実効的な訓練となるよう予告なしの避難訓練を行い、一分間一コマ訓練の効果を検証する。</p> <p>○危機管理マニュアルを策定し、教職員に職員会議や打ち合わせ時に周知・徹底する。また、不断の改善を行っていき、より実効性のあるマニュアルを整備していく。</p>
	結 果	<p>○安全指導の日…全校統一の資料を示し、学年の実態に合わせて内容を精査し、実施している。毎月、その月に気をつけさせたい事項について、安全指導を行った。</p> <p>○一分間一コマ訓練…各学級で、学校内の様々な場所で訓練を行った。学級により取組の箇所・数は異なる。(0か所～7か所)</p> <p>○予告なし避難訓練…地震を想定した、訓練を行った。「自分の命は、自分で守る」ことを意識し、避難行動のとれる児童もいたが、おしゃべりや遊び半分の児童も多く見られた。</p> <p>○危機管理マニュアル…マニュアルの更新や周知を行った。マニュアルを見ながら、説明する機会を設けた。</p>
A 次年度 への 課題	<p>○日常、起こりがちな生徒指導上の課題解決に忙殺され、安全指導等は後回しになることが多いが、今日の自然災害等の発生状況を考えると、教員の安全管理・指導に対する意識改革を行い、教員自らが当事者意識を持ち、実効性のある訓練等にしてい。また、児童の意識改革を図るよう安全教育を徹底する。</p> <p>○児童がけがをすることが多いので、自然災害等ばかりではなく、学校生活上の安全指導にも重点をおく。</p> <p>○下校時の児童の行動について、地域の方から指摘されることも多いので、繰り返し指導する。</p>	

2. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会

1 実施日 令和4年2月24日（木）

2 会場 加納岩小学校調べ学習室

3 参加者

○学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）

平井 隆	区長会長
長坂 達也	P T A会長
古屋 文彦	主任児童委員
笠井 一	児童民生委員地区会長
雨宮 政文	社会教育委員
中島由貴子	P T A副会長（女性代表）
小林 正樹	P T A顧問

○学校職員

小河 順一（校長） 三枝 一哉（教頭） 宮澤みさ子（教務主任）

《 学校関係者評価委員からの意見 》

①確かな学力

- ・多忙の中、一人一実践されていることが素晴らしい。子どもを目の前に置き、研究と実践を繰り返しながら、生きた教育がなされていると思う。まさにP D C Aサイクルとして高く評価できる。
- ・I C T教育が、柱の一つになっているが、communication がI Tに加わったことを明確に捉えて、児童が相互に育ちあう発信と受信とが不可欠だと思う。「家庭・地域」との連携が重要だと思う。
- ・I C T活用のために先生方が学習会や研修を行っていることを評価する。今後、更に活用できるよう先生方の指導力の向上を期待します。

②豊かな心

- ・人権教育は、コロナやマイノリティーの課題がある中、重要な教育なので、的を得た学校評価になっていると思う。
- ・学力向上プロジェクトは、集団づくり、学級づくりに分かりやすい取り組みだと思う。全校で取組を深め、効果を検証し、成果を継続して生かしてほしい。

③健やかな体

- ・感染症予防に関わる取組は、適時性も高く、評価できる。子どもたちが、委員会活動を含め自律的に実践していることが素晴らしいと思う。

④安全安心な学校

- ・「一分間一コマ訓練」や「予告なし避難訓練」など、実践的で身につけやすい方法での意識化や行動化は、小学生にとって防災力の向上に結び付きやすいと思う。
- ・行動規範は、「意識の整理」と「行動の習慣化」によると思うので、子どもたち自身でも、「マップ作成」や取組の発信」などの実践を継続して行ってほしい。
- ・保護者や地域の方々を含めた安全な環境づくりができると良い。

⑤全体的に

- ・各々の部会ごとにと組が行われていること、次年度の課題が明確になっていることから問題はなし。
- ・各種行事が中止、代替となっておりますが、当初の行事の目標が達成できるようにお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症対策についても取組が徹底されており、特に問題となる事案はなかったと認識している。
- ・感染症対策については、今後行事等を行う際の参考にさせていただきたいと思います。
- ・今後も、自己評価の通りの実践を期待している。
- ・感染症対策を十分にとり、児童の安全安心確保を第一に考えた対応をお願いします。
- ・児童の基礎体力向上が図られる活動や子供たちの交流が図られる活動が少しでも実施されるよう考えていただきたい。